

Pension Reform for an Aging Japan: Welfare and Demographic Dynamics

2024.

3.21 THU. 14:00-16:00

オンライン開催
参加無料

主催 公益財団法人アジア成長研究所（北九州市小倉北区大手町11-4 ムーブ6階）

講演概要

私は10年ほど前に「人口内生世代重複シミュレーションモデル」を構築した。このモデルは、様々な政策案の効果を検証するに当たって、(将来世代を含む全ての世代の)一人当たりの効用水準だけでなく、将来の人口動態への影響も定量的に分析できる有用なモデルである。応用範囲も広く、少子化対策、移民政策、所得階層間での移動、政府の長期債務残高の水準についての考察など、様々な公共政策について幅広く分析することが可能である。この講演では、この分析モデルを用いて日本の年金政策について考察を行った結果を報告する。

少子高齢化の進展の中でアメリカ、ドイツ、フランスなど多くの先進国では年金の(標準的な)支給開始年齢の引き上げが既に決定している。その一方で、他の先進国よりも平均寿命が長いにもかかわらず、日本の年金の(標準的な)支給開始年齢は65歳のままである。この状況を踏まえて、年金の支給開始年齢を65歳から68歳または70歳に段階的に引き上げた場合の影響について分析を行った。この分析を行うに当たって、65歳以降の高齢者の就業状況に着目し、就業率の違いが結果に与える影響についても考察を行った。

この講演では、年金の支給開始年齢の引き上げに関して、高齢者の就業率に着目しながら、一人当たりの効用水準に与える影響、および将来の人口水準に与える影響についての分析結果を報告する。

【使用言語】発表は日本語・資料は英語

講師

岡本章氏 / 岡山大学 社会文化科学学域 教授

1964年奈良県生まれ。京大経卒、同大学院博士課程中退。岡山大学経済学部助教授を経て、岡山大学学術研究院社会文化科学学域教授。フルブライト奨学金研究員、安倍フェローとして在外研究(カリフォルニア大学バークレー校)に従事した。京大博士(経済学)。専門は公共経済学、人口経済学。著書に『Tax Policy for Aging Societies: Lessons from Japan』(Springer)など。



オンライン(ZOOM)で開催いたします。

※インターネット環境とPCやスマートフォン、タブレットが必要です。

【お申し込み】① 電子申込: <https://forms.gle/qbNSyxSBkHhBENkV8>

② メール申込: メールにて、氏名・所属・電話番号を office@agi.or.jp へ送信してください。

①②とも、前日までにご参加用URLをメールでお送りします。(申込〆切: 3/19(火) 午後12時)



【お問合せ先】公益財団法人アジア成長研究所(AGI) 担当: 谷村 ☎ 093-583-6202 ✉ office@agi.or.jp

※ご記入いただいた個人情報は、当研究所業務に関する情報提供・運営管理に活用させていただきます、第三者に提供することはありません。